

大人向け

どんなほんがすき？

はじめてのひとり読みにおすすめの本



日野市立図書館

## 保護者のみなさま、先生方や子どもの読書に関わるみなさまへ

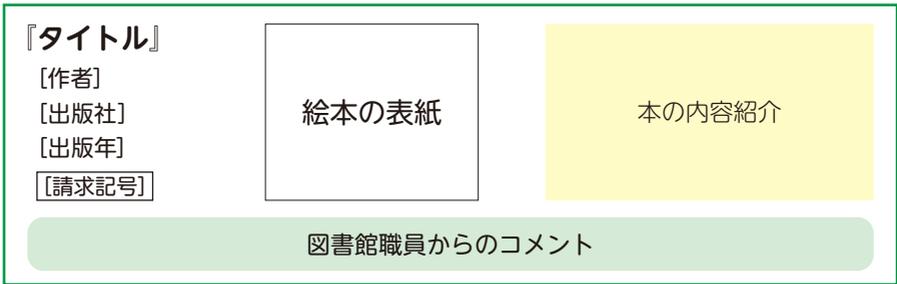
このリストには、絵本より字が多く、大人が読んであげて一緒に楽しんでも、はじめてひとりで読んでも理解できる本を掲載しました。字を覚えても、ひとりで読んで内容を理解するのは難しいもの。ぜひ、一緒に本の世界を楽しんでください。

### ★リストの見方

このリストでは、次のことを紹介しています。

- 本の情報 タイトルや作者など
- 本の内容紹介
- 図書館職員からのコメント

### ★凡例



### ★請求記号について

図書館の本は分野ごとに並んでおり、その内容を表す「請求記号」のラベルが本の背に貼ってあります。

- 絵本 画家の名字の五十音順で本棚に並んでいます。  
例) P/ア ⇒ 絵本の「ア」の棚にあります。
- 読みものの本 対象年齢ごとに分かれています。  
《対象の目安》 C1=小学校低学年～ C2=小学校中学年～  
C3=小学校高学年～  
また、物語の作者の五十音順で本棚に並んでいます。  
例) C1イ ⇒ 低学年向け読みもの「イ」の棚にあります。
- その他は分野ごとに並んでいます。  
例) 470 ⇒ 植物の棚

## 『あくたれラルフ コンテストにでる』

ジャック・ガントス/文  
ニコール・ルーベル/絵  
小宮 由/訳  
大日本図書  
2021

C1カ



あくたれねこのラルフは、ねこのコンテストで従弟のパーシーに勝つため、苦手なことも辛抱して特訓を重ねます。さあ、優勝できるでしょうか？絵本「あくたれラルフ」シリーズの読みもの版です。

インパクトのある絵だけでも物語を充分理解できます。  
シリーズの絵本も一緒に読むとラルフのあくたれぶりがさらに楽しめます。

## 『イワシ むれで いきる さかな』

大片 忠明/さく  
福音館書店  
2019

484



海の中を大きな群れで泳いでいるイワシ。コアジサシや人間などさまざまな生き物に襲われてしまいますが、別の群れと一緒にすることでまた大きな群れをつくります。そんなイワシの群れの一生を描いた絵本です。

細かいところまで書き込まれた迫力のある絵で、ドキドキしながらイワシの一生を知ることができます。

## 『うおいちば』

安江 リエ/ぶん  
田中 清代/え  
福音館書店  
2016

660



きよの家族は魚市場で働いています。今朝は4時に起きて、きよも一緒に魚市場に行きました。市場ではあちらこちらに魚の入った保冷箱が積みあがっていて色とりどりの魚がたくさん並んでいます。この中からおばあちゃんの大好きなキンメダイはみつかるでしょうか。

魚市場の様子や機能・役割が、子どもにもわかりやすく描かれています。  
絵の中に登場する魚介類の名前は見開きで解説されています。

## 『うつくしい絵』

かこ さとし／著

偕成社

1991

720



ダ・ビンチのモナ・リザやゴッホのひまわり、北斎の版画などの作者と作品を紹介しています。これらの作品がどうして美しい絵といわれるのかを語りかけるように説明しています。

絵の中の人物の様子や、人はどういうところを見て美しいと感じるのかなど、絵の見方がわかる本です。

## 『うみのとしょかん』

葦原 かも／作

森田 みちよ／絵

講談社

2016

C17



うみのとしょかんは、おだやかな海の底にあります。ここでは、若いヒラメが毎日、いろいろな本の相談をうけて、その人にピッタリの本をさがしてくれます。ほら今日もだれかがやってきましたよ！

図書館にやってくる個性豊かな魚たちと、若いヒラメの図書館員とのやりとりをぜひ楽しんでください。

## 『うろおぼえ一家のおかいもの』

出口 かずみ／作

理論社

2021

P/テ



あひるの一家はとにかくなんでもうろおぼえ。今日は“お”のつくものをするんだよね。「おさんぽ？」「おなら？」「そうだ！おかいものだ！」一家みんながこんな調子です。果たしてお母さんから頼まれたものを買って帰れるでしょうか？

最初から最後まで続くうろおぼえの数々に思わず笑いだしたくなります。誰かに紹介したくなる本です。

## 『おかしなゆきふしぎなこおり』

片平 孝／写真・文

ポプラ社

2012

451



冬の夜、雪が降ります。降り積った雪は様々な形をみせます。岩の上の大福みたいな雪、車の上の雪はパンケーキ、雪の上の動物の足跡、風で面白い形に変化する雪など。雪や氷が自然に作り出す不思議な景色を迫力のある写真で伝えます。

雪の世界が、楽しい言葉と一緒にひろがります。冬の読み聞かせにおすすめです。

## 『おおきなカエル ティダリク オーストラリア アボリジニ・ガナイ族のお話』

加藤 チャコ／再話・絵

福音館書店

2012

388.71



岩山のように大きなカエル、ティダリクが大平原の水という水をすっかり飲み干してしまいました。困ったほかの動物たちは、ティダリクを笑わせれば腹から水をふき出すのではと考えます。そこで、みんなにとっておきの芸を披露することにしました。

エミューのあしあげダンス、カンガルーのおやことびなどの個性的な芸や、ユーモラスな表情が魅力です。

## 『おそうじやさんはじめます』

つかはら みさ／文

石坂 しづか／絵

福音館書店

2021

P/イ



お掃除が大好きなアリクイさんは、掃除の得意な仲間を募集。いろんな動物がやってきて「おそうじやピカット」を始めることができました。けれどお掃除が苦手な猫は仲間に入れず…。

くっきりした絵をみただけでストーリーがわかり、本を読みなれない子どもにも楽しめます。

### 『おともださにナリマ小』

たかどの ほうこ／作  
にしむら あつこ／絵  
フレーベル館  
2005

C17



小学1年生のハルオは、毎朝友達と一緒に登校します。ある日初めて1人で学校へ向かうと、なんだか教室にいる友達の様子がいつもとちがうみたい。両耳にえんぴつをはさんでいたり、上着をうしろまえに着ていたり…。なんとここは〇〇〇の学校だったのです！

可愛らしい間違いにくすっと笑ってしまいます。低学年らしい心の動きにも共感できるのでは。

### 『おひめさまになったワニ』

ローラ・エイミー・シュリッツ／さく  
ブライアン・フロッカ／え  
中野 怜奈／やく  
福音館書店

2020

C1シ



立派な女王になるために、コーラひめは朝から晩までやることばかり。自由な時間はありません。そんな姫を助けようとやってきたのはワニ！ワニは「一日だけでもいいから、お休みが欲しい」姫の身代わりになり、姫に「そとでじゆうにあそんできなよ」と言います。

ピンクのドレスを着て「あたしはかわいいコーラひめ」と、ワニがどんどん調子に乗っていく様子が、テンポよく笑いを誘います。

### 『カエサルくんとカレンダー 2月はどうしてみじかいの？』

いけがみ しゅんいち／文  
せきぐち よしみ／絵  
福音館書店

2012

449



ゆうかちゃんがカレンダーに記念日の印をつけていると、2月だけみじかいことに気がつきます。ゆうかちゃんが不思議に思っていると、カレンダーのなかからへんな服を着た小さなおじさんが現れます。

カレンダーの成り立ちを、小さなおじさんカエサルくんが解説する様子は、少しコミカルで、ゆうかちゃんとのやりとりは微笑ましいです。

## 『きえた犬のえ ぼくはめいたんてい』

マージョリー・W. シャーマット／ぶん

マーク・シーモント／え

光吉 夏弥／やく

大日本図書

2014

C1シ



ネートはどんな事件も解決する名探偵。ある日、友達のアニーから電話がかかってきました。アニーが描いた犬の絵が無くなったので探してほしい、という依頼でした。早速アニーの家に向かいます。部屋の中を探し、庭を掘り返し…。さて、絵は一体どこに？

絵が多く文章も読みやすいシリーズもの。登場人物が個性豊かなので、楽しく読み進められます。

## 『クルマの森のニホンリス』

ゆうき えつこ／文

福田 幸広／写真

小学館

2018

489



長野県八ヶ岳山麓の森に生きるニホンリスの姿を、6年もの歳月をかけて撮影。その写真に温かみのある文章がそえられています。あとがきでは、ニホンリスの生態やニホンリスとクルマの木を守る動き等についても記されていて、大人が読んで子どもに伝えることで、一層この本を楽しむことができます。

クルマが大好きなリスの姿がとてもほほえましい写真絵本。最終ページの写真は、リスが埋めたクルマが芽を出し、これから森が広がっていくことを予感させます。

## 『ごきげんなすてご』

いとう ひろし／さく

徳間書店

1995

C1イ



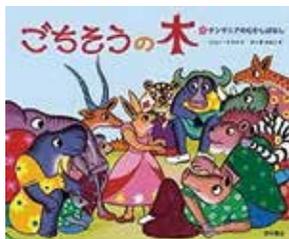
お母さんが弟ばかりかわいがるので、すてごになることを決めた女の子。段ボールに入り拾われるのを待ちますが、声をかけてくれたのは、家出した犬とのらねこと亀でした。はたして女の子はすてきなうちにもらわれることができるのでしょうか。シリーズ3冊あります。

前向きな女の子が魅力的で、長く読み継がれています。弟や妹がいる子はきっと共感できる話です。

## 『ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし』

ジョン・キラカ／作  
さくま ゆみこ／訳  
西村書店  
2017

388.4



食べ物がなくなってしまったタンザニアの大地に熟した実をつけた不思議な木がありました。いろんな動物たちがその実を取ろうとするけれど取れません。かしこいカメに相談に行くことになったけれど、誰が行っても「不思議な木の名前」を忘れて帰って来るのでした。

色彩豊かな動物たちと「木の名前」が繰り返されるストーリーで、目からも耳からも楽しめる昔話絵本です。

## 『このあしだあれ？』

### はじめてであういきもののふしぎ』

ネイチャー＆サイエンス／編  
河出書房新社  
2015

480



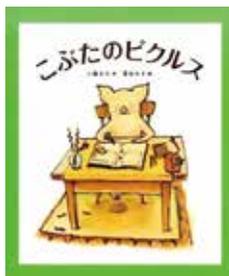
これは足。誰の足でしょう。いろいろな動物の足が登場します。動物園でみかけるよく知っている動物からちょっと珍しい動物の足まできれいな写真でみることができます。

ページをめくると誰の足がわかる写真絵本です。見開きに、この本に出てくる動物のデータもあり、知識を広げることができます。

## 『こぶたのピクルス』

小風 さち／文  
夏目 ちさ／絵  
福音館書店  
2015

C130



朝です。学校へ行く時間です。ピクルスは忘れ物がないよう、大きな声でカバンの中を点検します。道中あれこれと頼まれるうちに増えていくカバンの中を、そのたびにきちんと点検しますが、ある大事なことを忘れてしまいます……。『ピクルスのわすれもの』他3編

おつかいや歯のはえかわりなど、子どもに身近な物語です。かわいらしい絵とやさしい文が読みやすい一冊。『ピクルスとふたごのいもうと』もあります。

### 『さるとわに ジャータカ物語より』

ポール・ガルドン／さく  
きたむら よりはる／やく  
ほるぷ出版  
2004

388.25



おなかをすかせた若いワニが、サルを捕まえて食べてやろうと考えました。年寄りのワニは「サルは賢いから」と諫めましたが、若いワニは大丈夫だと一匹のサルに声をかけました。「おさるさん! 俺の背中に乗ってあの島へ行こう。くだものがたくさん実っているよ!」

ワニとサルの知恵比べをユーモラスに表現していて、ハラハラしながら読み進めることができます。

### 『ジェインのもうふ』

アーサー＝ミラー／作  
アル＝パーカー／絵  
厨川 圭子／訳  
偕成社  
1971

C1ミ



ジェインはピンクの赤ちゃん毛布が大好きで片時も手離しません。毛布はジェインの成長につれて、擦り切れ小さくなっていき…。大切なものからの卒業を両親の温かい言葉が見守ります。

お気に入りのものを通して成長を見つめる心温まるお話。毛布だけ彩色された挿絵も印象的です。

### 『シェルパのポルパ エベレストにのぼる』

石川 直樹／文  
梨木 羊／絵  
岩波書店  
2020

P/ナ



ヒマラヤ登山で、荷物の運搬や案内を務めるシェルパ。ヒマラヤ麓に生まれ、シェルパを目指す少年ポルパの初登頂を通して、その知られざる生活や仕事を描かれます。

山に関する著作も多い写真家の文章、雄大かつ温かみのある絵に魅了されます。続編あり。

### 『すてきなひとりぼっち』

ながわ ちひろ/作

のら書店

2021

C1ナ



自分を残して友達が遊びにいったり、転んでも誰も気に留めなかったり、そんな「ひとりぼっち」には慣れている一平。それでも、鍵がかかって誰もいない家を前に、心細さが募ります。そこで一平は、お母さんを迎えに一人で商店街へ向かいます。

自分にとっての「すてきな時間」を見つける物語。ひとりぼっちでいることもわるいことばかりじゃない、と思える一冊です。

### 『スミソニアンに恐竜がやってきた！』

ジェシー・ハートランド/さく

志多田 静/やく

六耀社

2016

457



一億年前に生きていた恐竜ディプロドクスは、どうやって博物館に来たのでしょうか。恐竜が博物館に展示されるまでを描いた物語です。巻末には恐竜についての豆知識ものっています。

「恐竜ハンターに発見され、古生物学者に鑑定され、……」とたくさんの職業の人が登場し、楽しく読めます。

### 『たんけんクラブ シークレット・スリー』

ミルドレッド・マイリック/ぶん

アーノルド・ローベル/え

小宮 由/やく

大日本図書

2017

C1マ



ビリーとマークは砂浜で手紙の入ったビンを拾いました。中の手紙は暗号でした。暗号を解くと、手紙は島に住むトムから来たことがわかりました。暗号をやり取りした三人は一緒に探検クラブを作ることになりました。シークレット・スリーの誕生です。

瓶に入った手紙、暗号など冒険心をくすぐられる内容です。絵が多く、絵でストーリーを追える幼年童話です。

## 『小さな赤いめんどり』

アリソン・アトリー／作

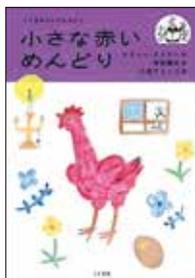
神宮 輝夫／訳

小池 アミイゴ／絵

こぐま社

2017

C1ア



ひとりぼっちで暮らすおばあさんの家に、ある日働き者の小さな赤いめんどりが訪ねて来ました。寂しかったおばあさんの暮らしはとても楽しくなりました。けれども元の飼い主がめんどりを取り戻しにやってきます。

ハラハラドキドキしますが、最後は幸せに終わります。おばあさんとめんどりの絆は固く、読んでいて心が落ち着きます。

## 『チョコレートだいすき』

ひさかたチャイルド

2009

T4



カカオの実からチョコレートができるまでを写真で紹介しています。遠い海の向こうでのカカオの種を取り出す工程にはじまり、カカオの種から普段見るチョコレートを作る流れをみることができます。

カカオの種からチョコレートを作る工程は、実演で紹介されており、理科の実験のような楽しさがあります。また、その工程が工場ではどうなっているのか、も知ることができます。

## 『月のふしぎ』

いしがき わたる／え

おおぬま たかし／かんしゅう

マイルスタッフ

2020

443



見るところや時間によって様々な顔を見せる身近な天体・月。月はどうして欠けるのか、なぜ赤や白っぽく見える時があるのかなど、月について易しくお話しします。巻末に解説と補足があります。

子どもが疑問を持ちそうな点を、語りかけるような口調で説明しているので、大人と子どもと一緒に読みやすいです。

## 『てんきのいい日はつくしとり』

石川 えりこ/さく・え  
福音館書店  
2016

C1イ



春のある日、ちえちゃんは家族で秘密の場所へつくし取りに出かけます。バツガが飛び出してきたり、土手を落ちそうになったりしながら、ちえちゃんが一番大きなつくしんぼの王様を手に入れます。お家に帰ってはかまを取ったら、つくしの卵とじを作ります。

横書きに優しい絵で、つくし取りの様子が楽しく書かれています。春の匂いがしてくるようです。

## 『でんちゆう』

野坂 勇作/さく  
福音館書店  
2015

540



「みちの はしに たっている」電柱。暮らしに必要な電気を送ってくれるものですが、実は他にも様々な働きをしています。電柱の知られざる秘密がわかる本です。

電柱を地面から上へ上へと読み進めていく縦開き絵本です。ダイナミックな絵も魅力的です。

## 『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

ジェラルド・ローズ/文・絵  
ふしみ みさを/訳  
岩波書店  
2011

P/0



年老いて痩せこけてしまったトラは、宮殿で家族とご馳走を食べている王様を見て、仲間になりたいと思いました。ある日、宮殿の庭にトラの絨毯が干されているのを見て、仲間になる方法を思いつきます。

トラのひらめきやその後の展開もさることながら、表情豊かに描かれた登場人物を見るのも楽しい一冊です。

## 『なぞなぞのすきな女の子』

松岡 享子/さく

大社 玲子/え

学研

1973

C1マ



なぞなぞが大好きで毎日のように家を出していたら、くたびれてしまったお母さんに、遊んでくれる誰かを外で探すように言われてしまいました。外で出会ったのはお昼に食べる子どもを探したオオカミ。女の子は、このオオカミにあるなぞなぞを出します。

オオカミとやり取りをするドキドキ感や、なぞなぞの答えへの興味で、読者を物語にぐっと引き込んでくれます。『じゃんけんのすきな女の子』も一緒にどうぞ。

## 『なんでもあらう』

鎌田 歩/作

福音館書店

2014

P/カ



自転車が汚れていても気にしなかったけんちゃん、ヘルメットをかぶったおじさんに洗ってもらい、汚れたままにしていると危ないという事を教えてもらいます。それからおじさんと一緒に、色んなものの洗い方を見にいきます。

親しみやすい絵と興味深い内容で、清潔にしておくことの大切さがすんなりわかる一冊です。

## 『なんでもふたつさん』

M.S.クラッチ/ぶん

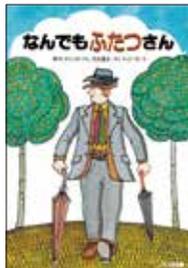
光吉 夏弥/やく

K.ビーゼ/え

大日本図書

2010

C1ク



“なんでもふたつさん”は、全て二つずつ揃えないと気が済まない人。残念なのは、奥さんと子どもが一人ずつしかないことなんです。ある日、息子のピーター君と名前も同じで見た目もそっくりな男の子が隣に越して来て、少年二人はある作戦を執行します。

ユーモラスな発想と奇想天外なストーリー。長く読み継がれており、大人も楽しめます。

## 『バナナのはなし』

伊沢 尚子／文  
及川 賢治／絵  
福音館書店  
2013

470



バナナを冷やすと黒くなるのはなぜ？バナナはどんなふう  
に大きくなるの？などなど、  
バナナを大紹介。巻末には大  
きい子向けのより詳しい説明  
もあります。

はっきりとした色使いが印象的。ひとりで読んでも、大人と一緒に読んでも楽しい本です。

## 『ハリセンボンがふくらんだ』

鈴木 克美／作  
石井 聖岳／絵  
あかね書房  
2008

484



水族館には色々な魚がいます。  
中でもハリセンボンはとても  
ユニークな魚です。なぜ膨ら  
むのか？体の仕組みや、珍し  
い産卵まで楽しい絵で解説し  
てくれます。

生き物好きの子や、絵が好きな子は真似して書いてみたくなるかも！ハリセンボンがかわいく身近に感じられます。

## 『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー／さく  
松岡 享子／やく  
大社 玲子／え  
福音館書店  
1992

C1ウ



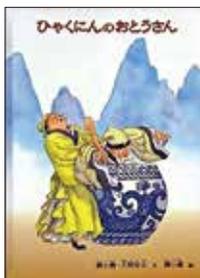
ドドさんの家にはお母さんと  
4匹の子ねずみが住んでいま  
す。一番声が大きい子ねずみ  
は「やかましやのヤカちゃん」  
と呼ばれています。子ね  
ずみ達は大きくなって独立す  
ることになりました。ヤカ  
ちゃんはドドさんにつかまら  
ずに暮らせるのでしょうか。

少し長めのお話ですが絵が多く読みやすいです。ストーリーが起伏に富んでいて、主人公に感情移入しながら読み進められます。

## 『ひやくにんのおとうさん』

譚 小勇／文  
天野 祐吉／文  
譚 小勇／絵  
福音館書店  
2014

388.22



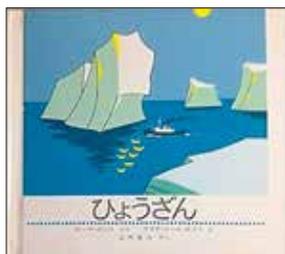
昔、働き者の若い夫婦が土の中から大きなかめをみつけます。そのかめは不思議な力を持っていて、入れた物が何でも百倍になるのです。若い夫婦は、傘や鉄なべを百倍にして、村のみんなに配ります。それを見ていた悪い地主が、かめを取り上げてしまいます。

入れたものが何でも百倍になるかめ。いったいどんな結末になるのかを、楽しみながら読み進められます。

## 『ひょうざん』

ローマ・ガンス／ぶん  
ブラディミール・  
ポブリ／え  
正村 貞治／やく  
福音館書店  
1968

452



冰山は海で漂う氷の島。元は氷河の一部でした。冰山ができるまで、そして海を漂い溶けていくまでをシンプルな絵と落ち着いた文章で説明しています。

50年以上読み継がれてきている科学絵本。訳者が子どもと相談して言葉を選んだそうで、想像力が膨らむ一冊です。

## 『ヒルダさんと3びきのこざる』

クエンティン・ブレイク／文  
エマ・チチェスター・  
クラーク／絵  
むらおか みえ／訳  
徳間書店  
2017

P/チ



ヒルダさんが飼っているのは3匹のこざる。ヒルダさんの留守中、元気いっぱいなこざるたちは、言いつけも守らずやりたい放題です。毎日続いたずらに、とうとうヒルダさんも…。

表情豊かで温かみのある絵、愉快的なストーリー。子どもはもちろん大人も共感できる本です。

## 『ぺちゃんこスタンレー』

ジェフ・ブラウン／文  
トミー・ウンゲラー／絵  
さくま ゆみこ／訳  
あすなろ書房  
1998

C17



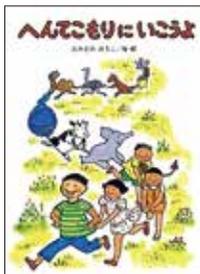
スタンレーは、ある日突然、分厚い板の下敷になり、ぺちゃんこになってしまいます。便利なのが沢山あるので弟のアーサーはとても羨ましがりますが、良い事ばかりではないようです。さて、スタンレーは、元の姿に戻ることが出来るのでしょうか…。

奇想天外な出来事が起きているのに、日常生活が普通に行われているところが面白いお話です。

## 『へんてこもりにいこうよ』

たかどの ほうこ／作・絵  
偕成社  
1995

C17



へんてこもりに遊びにきた、4人の子どもたち。動物の名前でしりとりをしながら歩きます。ブンタは、「ま」から始まる動物の名前が思い浮かばず、適当に「まるぼ!」と叫びました。すると、まん丸いやカンの様な不思議な生き物が、森から飛び出してきました。

子どもたちの「しりとり」から、様々な生き物が生まれます。想像力が膨らむ一冊です。シリーズもあります。

## 『ほうさんちゅう ちいさなふしぎな生きもののかたち』

松岡 篤／監修  
かんちく たかこ／文  
アリス館  
2019

460



海に漂って暮らす、小さなちいさな放散虫。放散虫の骨には、様々なカタチがあります。2本の角の不思議なカタチ、ハチの巣みたいなカタチ。色々な美しい骨が、電子顕微鏡で拡大した写真で紹介されています。

黒地に白いほうさんちゅうが映える美しい写真絵本です。図鑑が好きな子にぜひおすすめしたい一冊。

### 『ホネホネどうぶつえん』

西澤 真樹子／監修・解説

大西 成明／しゃしん

松田 素子／ぶん

アリス館 2009 480



シリーズの「ホネホネたんけんたい」「ホネホネすいぞくかん」も併せてどうぞ。いろいろな生き物の骨がみられます。

いろいろな動物の骨を、美しい写真とクイズのような楽しい文章で紹介しています。それぞれの動物について、イラストを交えた解説が後半部にあり、細かい書き込みを楽しんだり、大人に読んでもらって新たな発見をすることができます。

### 『みしのたくかにと』

松岡 享子／作

大社 玲子／絵

こぐま社 1998

C1マ



昔話のような展開で、最後には満足のいく結末を迎えられるお話。「さかさことば」がキーワードとなっているので「言葉遊び」への誘いにもなる一冊です。

お城で毎日大人達に知識をつめこまれていた王子さまは、ある日とうとう我慢できなくなります。食欲がなく「…みしのたくかにと」しか食べないと言い張ります。大人たちは必死に探しますが何のこことやら全くわかりません。でも、小さな男の子は知っていて…。

### 『虫のかくれんぼ』

海野 和男／作

福音館書店 2017

486



ひとりでじっくり探しても、誰かとわいわい探しても、とても楽しい本です。

日本だけではなく世界のあちこちの虫のかくれんぼが見られます。どこにいるのか全く分からないような写真もあります。さあ、あなたは全部見つけられるでしょうか？

### 『ゆらゆらチンアナゴ』

横塚 眞己人／しゃしん

江口 絵理／ぶん

ほるぷ出版 2014

484



顔面のアップから、泳いでいる全身像まで、様々な角度から「チンアナゴ」の写真を見ることができます。

名前の由来や生態について知ることができるチンアナゴの写真絵本。エサは何か、巣穴はどうなっているのか、詳しく知ることができます。写真と一緒に、可愛いイラストも載っていて、楽しく解説してくれます。

## 『レッツとネコさん』

ひこ・田中/さく  
ヨシタケ シンスケ/え  
講談社  
2018

C1/E



5歳になったレッツが、3歳の頃を思い出し、語っているおはなし。ある日、お母さんが黒いネコを拾ってきます。レッツは、ネコを「ネコさん」と呼んで、観察しながら、かわいがります。レッツはネコに「ネコさん」という呼び方ではない名前を考えます。

子どもならではの視点、大人びた語り口が物語の独特な世界を作っています。他に「レッツのふみだい」「レッツがおつかい」「レッツはおなか」があります。

## 『わたしたちのたねまき』

### たねをめぐるいのちたちのおはなし』

キャスリン・O.  
ガルブレイス/作  
ウェンディ・アンダスン・  
ハルパリン/絵  
梨木 香歩/訳  
のら書店

2017

P/H



庭で親子がかぼちゃなど作物の種をまいています。けれども、草原や山ではもっと沢山の種がまかれてきました。「大風のたねまき」「鳥のたねまき」「太陽のたねまき」「動物たちのたねまき」いろいろなたねまきが、大自然の中で繰り返し行われてきました。

「たねをまくこと」を題材に、地球やいのちのつながりについて描かれています。一粒一粒の種の絵をじっくり見ながら読みたい本です。

## 『わたり鳥』

鈴木 まもる/作・絵  
童心社  
2017

488



春には南の国から、冬には北の国から日本にやってくるわたり鳥。どのような鳥が、なぜ海を渡るのでしょうか。様々な危険にさらされながら、海を渡っていく鳥たちの姿が描かれています。

数多くの鳥が生き生きと描かれています。それぞれの鳥に関する情報も満載です。

## おわりに

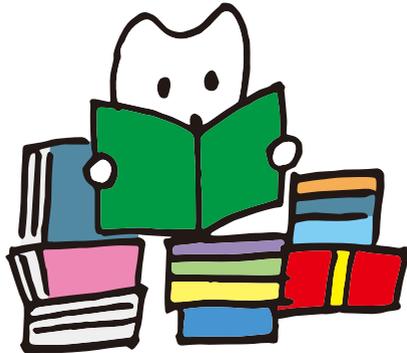
「小さいころから絵本を読み聞かせてきたのだが、なかなかひとりで本を読まない」「文字の多い本はどうも好きではないようだが、何か本を紹介してほしい」など、図書館のカウンターでは、これまでこのようなご相談を数多くいただきました。

そんな声にお応えできるよう、この度、小学校低学年向けの『こどもよう どんなほんがすき？ よんでみよう！ パート1』『こどもよう どんなほんがすき？ よんでみよう！ パート2』と、2つのリストに掲載した本を大人向きに解説した『大人向け どんなほんがすき？ はじめてのひとり読みにおすすめの本』を作成しました。

子どもが、絵本から文字が主体の本を読む時期に差しかかった時、ひとり読みを始めた時に、ぜひこのリストをお役立てください。

リストに掲載された本は、すべて図書館で所蔵しています。どうぞご利用ください。

また、本や読書に関するご相談は、いつでもお気軽に図書館へお問い合わせください。



大人向け どんなほんがすき？  
はじめてのひとり読みにおすすめの本

2022年3月

編集・発行 日野市立図書館  
〒191-0053 東京都日野市豊田2-49-2  
☎ 042-586-0584



図書館HP